

地域包括ケア推進事業「日赤すこやかサロン」

地域ぐるみで支えあえる住みやすく優しい地域づくりを目指し、災害公営住宅を拠点として、地域包括ケアモデル事業を展開しています。

日本赤十字社岩手県支部と盛岡赤十字病院は、高齢者等の健康の増進と地域住民同士のコミュニティの活性化を図ることを目的として、宮古市及び陸前高田市の2市とそれぞれ協定を結びました。災害公営住宅の入居者及び周辺地域住民を対象に、2年間定期訪問（2か月に1回）し、住民のニーズを踏まえた活動を開催していきます。

岩手県支部では、今回の同一地域での事業を継続して行うことによる効果を検証しながら、次の事業展開に活かしていくこととしています。



宮古市、日赤岩手県支部、盛岡赤十字病院の協定締結式

宮古市八木沢地区は9月から奇数月に、陸前高田市中田地区は10月から偶数月に行っています！



基本メニューは、赤十字講習や防災セミナー、盛岡赤十字病院による健康講座、お茶会や季節の催し等のサロン活動、体操やノルディックウォーキング等の健康エクササイズ、健康状態の測定等があり、毎回住民の方々の希望もお聞きしながら実施しています。

健康チェックでは、当支部と協定を結んでいる明治安田生命の協力を得て「血管年齢測定」や野菜の摂取量が可視化できる「ベジチェック」を行っています。ベジチェックや血管年齢測定は人気があり、測定結果を受けて野菜を意識して摂取するようになった方が多く、数値の改善につながっています。

赤十字が行うサロンということで、普段顔を見せない方が参加したり、内容に興味をもった若い世代が足を運んだり、少しずつ地域交流の輪が広がりを見せています。



ベジチェックに合わせて盛岡赤十字病院の管理栄養士から野菜の摂り方についてわかりやすくお伝えしました。



盛岡赤十字病院 栄養課長 藤原真希子管理栄養士

サロンでは、住民のニーズに合わせたメニューを提供しています。それぞれの地域の現状と課題を洗い出し、健康で安全な生活の確保及び地域コミュニティの活性化に寄与することを目指しています。

上記2地区では、誰でも参加し交流できるように、赤十字各施設の事業体験（講習、医療、献血、福祉）や炊き出し等を行う「赤十字地域交流フェスタ」を開催する予定です。

赤十字地域の絆ボランティアを募集しています

地域の一員として、地域のために赤十字と一緒に活動しませんか？

内容	詳細
☆赤十字講習・防災セミナー普及活動	・日赤岩手県支部が地域住民を対象に行う「健康生活支援講習」、「救急法」、「幼児安全法」や「防災セミナー」の開催補助・ボランティア自らが実施する「健康生活支援講習」や「防災セミナー」またはその一部（体操やレクリエーション、防災食づくりなど）
☆災害支援活動	・県内で災害が発生し、被災地でボランティアが必要となった際、支部職員とともに被災地に向かいボランティア活動を実施

詳しくは、事業推進課までお問合せください。多くの方のご参加をお待ちしています。



絆ボランティアの活動の様子

避難所で使う屋内用テントや段ボールベッドを組み立てました。

盛岡開催！先着50名!! 社会貢献セミナーのご案内

日赤岩手県支部では、遺贈（遺言による寄付）、相続財産寄付（相続人が相続により取得した財産による寄付）を承っています。今年度2回目のセミナーを3月2日（土）13:00～14:30にホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング4階で開催します。（終了後希望者個別相談有）
遺贈・相続財産寄付について考えるきっかけにしてみませんか？
ケーキセット付きで、受講料、個別相談全てが無料のセミナーです。お一人でも、ご夫婦でもご興味のある方はお気軽にご参加ください。先着50名ですでお申込みはお早めにお申し込みください!!



お気持ちに感謝！託された思いを形に！高額寄付者のご紹介

令和5年5月～令和6年1月に岩手県支部へ10万円以上のご寄付をいただき、掲載のご了承をいただいた個人様・法人様のお名前をご紹介します。（順不同・敬称略）

- | | | |
|-----------|-------------------|----------------------------------|
| 個人 | ・石川 孝子 (奥州市) | ・大棒 レオ子 (宮古市) |
| | ・山口 昌六 (遠野市) | ・高西 良介 (盛岡市) |
| | ・井戸淵 春男 (軽米町) | ・菊池 隆 (北上市) |
| | ・三條 哲也 (盛岡市) | ・菊池 雪子 (北上市) |
| 法人 | ・(株)サンギフト (奥州市) | ・(株)ワールド設備機器 (奥州市) |
| | ・H2 (南) (盛岡市) | ・(株)本宮運輸 (金ケ崎町) |
| | ・(株)中館建設 (二戸市) | ・東京エレクトロンテクノロジーソリューションズ(株) (奥州市) |
| | ・(株)岩本電機 (洋野町) | ・(株)岩手防火管理サービス (花巻市) |
| | ・(有)プレゼンハウス (盛岡市) | ・サイトウデンタルクリニック (北上市) |
| | ・(株)アックサポート (盛岡市) | ・みずかわ耳鼻咽喉科医院 (北上市) |
| | ・(株)サンギフト (奥州市) | |

寄付金付き自動販売機設置企業のご紹介

令和5年7月～1月に2社3台設置していただきました。（敬称略）

- ・(株)高光建設 (盛岡市)
- ・江釣子ショッピングセンターパル (北上市)



「ハートちゃん」のラッピングデザインを取り入れた寄付金付き自動販売機

感想をお寄せください！オリジナルグッズ進呈！読者プレゼントのご案内

読者の皆様からの感想を募集しております。WEBフォームまたははがき・FAXでお寄せ下さい。抽選で日赤オリジナルグッズ（クリアファイル、メモ用紙、蛍光ペン）を進呈致します。当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

WEBフォーム <https://forms.office.com/r/nQKNRQphbK>

下記必要事項①～⑥を明記のうえ、送付ください。
①郵便番号、②住所、③お名前、フリガナ、④年齢、⑤性別、⑥メールアドレス、⑦本誌の感想、⑧今度取り上げて欲しいテーマ



発行者
問い合わせ先

日本赤十字社岩手県支部組織振興課
〒020-0831 盛岡市三本柳6-1-10 TEL 019-638-3610 FAX 019-638-3619

赤十字いわて

No.62
2024

冬季・春季号



特集 令和6年能登半島地震災害

(C) Atsushi Shibuya

(C) Atsushi Shibuya

日本赤十字社 岩手県支部
Japanese Red Cross Society



日赤岩手県支部の活動は「インスタグラム」へ

令和6年1月1日、能登半島地震発生!! 救護活動開始!!

日赤全体の活動状況

発災当日、内閣府調査チームとして本社職員2名が石川県庁へ、同時に初動派遣要員として本社職員等が石川県支部入りし、災害対策本部として活動を開始しました。

翌2日からは中部・北陸地区の各県支部の赤十字救護班が石川県内に入り、患者搬送、病院支援、情報収集等の活動を開始し、3日からは、関東、関西地区の救護班も加わり活動を行っています。

その後被害の状況が判明するにつれて医療支援ニーズの増大が見込まれたことから、全国の日赤各県支部に出動要請が発せられました。1日あたり最大17班の救護班が出動し輪島市、珠洲市、能登町、七尾市等で活動する等、チーム日赤として総力を挙げて支援に取り組んでいます。

救護班の派遣

被災地では緊急医療や病院支援、災害対策本部の運営、避難所巡回診療や衛生環境整備等、被災地の医療機関の機能が回復するまでの空白を埋めるため、さまざまな活動に従事。

日赤災害医療コーディネーターチーム

発災時に救護班等の派遣調整を行い、現地においても関係機関との連携、避難所や医療機関の情報収集、全国から集う医療チームの活動調整、支援物資の管理等、多種多様な業務を担うチーム。

救援物資の配布

日赤が全国的に常時備蓄している毛布、安眠セット、緊急セットに加え、今回の災害では、簡易トイレ、パーテーション、段ボールベッド等も配布。



内閣府調査チームの一員として石川県庁でのミーティング



石川県支部で被災地状況や活動内容等の説明を受ける救護班



活動拠点である公立能登総合病院で情報収集を行う救護班 (C) Atsushi Shibuya

岩手県支部も救護班を派遣中!

※今災害での救護班は、医師1名、看護師3名、薬剤師1名、主事(事務)2名、支援要員2名の計9名で基本構成されています。

救護班第1班 (1/10 ~ 1/14)

能登町にて避難所の巡回診療や衛生環境確認を実施。拡大傾向にある感染症患者を診療。



1/10 石川県に向け出発式に臨む救護班第1班



資材積み込み車両



土砂崩れによる規制



宿泊拠点に設置した簡易トイレ

第1班は、被災地の情報が少ない中、自己完結での活動が行えるよう、食料、蓄電池、簡易トイレ、ガソリン、寝袋等を車両に詰め込み出発しました。被災地に近づくにつれ、道路の亀裂、陥没、土砂崩れ等による渋滞が発生し、当日急遽通行止め区間が出来る等、通常2時間30分程度で到着出来る現地災害対策本部まで6時間30分を要して到着しました。



医師(班長) 谷藤 航

支援に行った我々に対し、被災者から東日本大震災の時の労いの言葉をかけられました。大変な状況の中でも他者への思いやりを忘れない方々を絶対に守らなければという思いで活動してきました。



避難所で巡回診療の様子



危険な箇所を避けて進む救護班



避難所でのこころのケア

避難所の衛生環境が整っておらず、感染症も拡大傾向にありました。初日は、老人ホーム入所者のインフルエンザ患者対応を行い、2日目、3日目は巡回診療を行い体調不良者の対応にあたりました。

救護班第2班 (1/15 ~ 1/19)

七尾市、志賀町にて避難所の衛生環境確認や整備(清掃やダンボールベッド設置)を実施。



医師(班長) 大山 健一

支援過疎の中能登地区での避難所の保健活動を地元保健師とともに行ってきました。地元の支援者が疲弊しており、支援者支援が必要と感じました。



清掃やダンボールベッド設置

救護班第3班 (1/21 ~ 1/25)

能登町にて避難所の巡回診療やダンボールベッド設置等衛生環境整備を実施。



医師(班長) 小原 崇裕



巡回診療での被災者支援



ダンボールベッドの組立て

日赤岩手県支部の今後の派遣予定

- ・日赤救護班 第4班【1/30 ~ 2/3】、第5班【2/13 ~ 2/17】、第6班【2/27 ~ 3/2】
- ・日赤災害医療コーディネーターチームの派遣 第1班【1/24 ~ 30】、第2班【2/19 ~ 25】

災害救護活動は、岩手県支部管内5施設が一丸となって業務にあたることとしており、今後も現地の状況に応じて、追加の救護班やこころのケア班の派遣を行います!!



県内で広がる義援金の募集

日本赤十字社では、令和6年能登半島地震災害による義援金を受け付けており、県内各地で義援金の募集が行われています。



遠野市赤十字奉仕団による募金活動



花巻北中学校 (JRC 加盟校)



令和6年盛岡市二十歳のつどい実行委員会



世界では、約1億人もの人々が故郷を追われ、命の危機に瀕しています。

気候変動により海外で頻発する災害

温暖化という気候変動は、水害やかんばつ、山火事等の自然災害を頻発化、激甚化させることによって、人間のいのちと健康、尊厳を脅かす人道上の危機をもたらし、世界中においてその状況は深刻化しています。

このため国際赤十字は、人道支援団体にはさらなる人命の損失や苦しみを防ぐため、気候変動への対応に共に取り組む責務があるとして、令和3年5月に「人道団体のための気候・環境憲章」を採択しました。

日本赤十字社は、人道支援団体として、この課題に正面から取り組む必要があると考え、令和4年3月に本憲章に署名するとともに、令和5年11月、気候変動対応基本方針を定めました。

基本方針の中では、以下の取組みを推進しています。

- ・救う (気象災害による被災者の支援)
- ・そなえる (気候変動による被害の防止・軽減)
- ・とめる (温室効果ガスの排出量削減等への取組み)
- ・広める・つなげる (活動の輪を広げる)
- ・考える (PDCAサイクルを回す)

この基本方針を基に今後本社が策定するアクションプランを受け、岩手県支部では令和6年度、青少年赤十字(JRC)や地域奉仕団等ボランティア事業の取組みを強化する予定です。



8月 アメリカ・ハワイ火災 © 米国赤十字社



9月 モロッコ地震 © モロッコ赤十字社



9月 リビア洪水 © リビア赤十字社

終わりの見えない人道危機

ウクライナ人道危機

日本赤十字社は「ウクライナ人道危機救援金」の募集のもと、現地で危機対応を展開する国際赤十字へ総額50億2,000万円の資金援助、加えて、多様な専門職員の派遣により人的貢献を行っています。

受付金額 (2023年11月30日時点)
91億7,939万6,351円
(岩手県内からは1/24時点で約6,100万円以上)

イスラエル・ガザ人道危機

イスラエルとガザの間の武力衝突が激化しています。現地の人道状況は日に日に深刻の度を増しており、双方合わせて犠牲者は20,000人、負傷者は55,431人を超えました(12月20日現在: UNOCHA)。



受付金額 (2023年11月30日時点)
3億3,091万1,333円
(岩手県内からは1/24時点で約51万円以上)

人道危機対応において、赤十字が大事にしていること

何よりもまず今、苦しんでいる人びとのいのちと健康、尊厳を守ることです。敵味方に関わりなく、支援を必要としている全ての人びとに少しでも多く支援を届けたいと考えています。このような活動を担保するために、赤十字は「公平」「中立」という立場を貫きます。

NHK海外たすけあいにご協力ありがとうございました。

岩手県支部受付金額
69万1,437円 (635件)
募集期間:
2024年12月1日~12月25日